

キャラクター名
薄墨 桜花 (うすずみ おうか)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス ブラックドッグ		ワークス	レネガイドビーイングC	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	15歳 (戸籍上)	性別	女
覚醒	忘却	衝動	加虐	初期侵食率	42	%
出自	偽りの家族	経験	生命停止	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	3	0	0			3	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	3	1	1			5	戦闘移動	14
社会	0	0	1			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	10	10	交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN (コネ込み)	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
【屍桜・緋紅】	RC	5r+30		3		3>1+2/シオン (選択) に装甲無視ダメージ。1点でも通ればBS憎悪
100↑		12		6		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
【実用】	
RCブースター	
コネ: UGN幹部	
運営委員の袖章	
【フレイバー】	
携帯電話	
フォーマル	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
No.64 傍らに立つ影P		N		
母親	P 慈愛	N 隔意		
“地仙”河合清丸P	P 尊敬	N 嫌気		
“九尾の狐”九ノ瀬 珠紀P	P 憧憬	N 恐怖		
藤堂綾女	P 同情	N 隔意		
凧	P 友情	N 憤懣		
マーク・ウィスP	P 誠意	N 恐怖		

最大財産P: 2 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シオン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
憎悪の炎	★	3	Xジャー	-	-	シオン	-	
効果:	ダメージ条件、自身に憎悪、							
原初の赤: サイレンの魔女	1	6	Xジャー	視界	シ (選)	RC	-	
効果:	Lv×3の射攻。装甲無視							
オリジン: レジェンド	5	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	シオン間、【精神】達成値+Lv×2							
リフレックス: ウロボロス	2	2	リア	-	-	シオン	-	
効果:	判定のC値-Lv (下限7)							
浄玻璃の鏡	★	1	リア	至近	自身	RC	-	
効果:	ドッジを行う							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果:	衝動判定のダイス+Lv。基浸+5							
ハードワイヤード	5	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	Lv個専用アイテム常備化。基浸+4							
イージーフェイカー	★	-	Xジャー	至近	効参	自動	-	
効果:	《快樂の香氣》コピー。基浸+1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【経歴】
むかしあるところに、それは美しい櫻の大樹があったそう。見る者を不安に陥れる魔性の美しさに「きっと根本には死体が埋まっているに違いない。だからあれほど美しいのだ」と人々は酒を片手に笑い、こっそりうそ寒そうに首をすくめたそう。

時は過ぎて現代、『櫻』は『桜』になり魔性は失われ、枯れて撤去が決まった。せめて見納めにと、子室に恵まれぬ老夫婦が大樹を見に行ったとき、彼らは枯れ木の根元で泣く赤ん坊を見つけた。彼らはその赤ん坊を引き取って育てることにし、「桜花」と名付けて可愛がった。

桜花はすくすくと育った、というにはいささか発育が遅かったが、それでも病氣らしい病氣はせず身体は健康だった。しかし老夫婦を、そして桜花自身を悩ませたのが、彼女が男女を問わず、そして善悪を問わず人を惹きつける性質ということだった。たしかに美しい少女ではあったが、度が過ぎた。その魔性はかつて失われたはずの櫻の大樹を彷彿とさせるものだった。

魔性は桜花の成長と共に増大し、やがて一線を越えかけたそのとき、桜花は仙人を名乗る怪しげなホームレスに出会った。それが世界の真実、そして自分のルーツを知る契機になるなどと、そのときの桜花は想像だにできなかった。

通信教育による猛勉強を得て高校に進学。地元を出て、怪異という存在に対して寛容な銀龍町を進学先を選ぶ。師のもとでしっかりと修行したので能力の制御も万全。背後でまるで羽のようにパタパタと翻る二対四枚の巨大な桜の花びらは半自律型のアバターであるが、これはこういう能力らしいので問題ない。憧れだった人並みに悩み、人並みに見栄を張る生活を、いまの桜花は送ることができている。

その力が彼女自身の意思で再び解放された時。